

目次	1	「退職のご挨拶」金本良嗣先生 / 「公共政策大学院の立ち上げに携わって」林良造先生
	2	第3回海洋政策教育・研究ユニット公開セミナー「アジアの海の国際秩序～持続可能な海上交通に向けて～」 / 日蘭共催シンポジウム報告
	3	学生インタビュー [飯村美佳さん・岩田千鶴さん]
	4	GraSPP Day / トピックス「大学教育の国際化を支える企業」

## 退職のご挨拶

金本良嗣



22年あまり勤めてまいりました東京大学を本年3月末をもって退職いたしました。設立準備を含め、その間の約半分を占めるほぼ11年にわたって公共政策大学院に関わってまいりました。

苦難の道ではありましたが、東京大学内外の皆様方に支えられて、公共政策大学院は着実に地歩を固めつつあります。日本のみならず世界の政策形成を支える次世代のリーダーを育てるという目標に向かって確実に進みつつあるという手応えを感じられるようになりました。

発展途上で退職するのは、残念な面もありますが、同じ人間がいつまでもやっていると水が淀んでしまいます。新しい目で見直して、一段と高みを目指すことが必要な時期であります。新たな発展を目指して、しっかりとPDCA(Plan, Do, Check, Action)サイクルを回して頂くようお願いいたします。別の大学に移りましても、現役の方々のご要望があれば、これからも微力ながらお手伝いさせて頂きたいと思っております。

折からの東日本大震災で有能な公共政策プロフェッショナルのニーズがますます高まってきているところで、東京大学から世界の公共政策リーダーが続々と巣立っていき、世界をより明るい場所にしていくことを期待しております。

## 公共政策大学院の立ち上げに携わって

林 良造



Japan As Number One から20年、国力の低下は今や覆うべくもありません。その間、さまざまな改革が志向されながら、方向も定まらず、貴重な資源が日々無駄に費やされていきました。基本的には、グローバル化という環境変化と、成長への余力・フロンティアが縮んでいく中で、多くの経済主体の知恵と資源を、成長に向ける環境を如何に作るかという問題の難しさが露呈しました。解決には、さまざまな制度を一貫した考え方で、同時に変えることが必要で、まず統治機構全体として、全体像を把握し合理的政策と工程をデザインする能力、その確実な実行を担保する仕組みを作る力、国民の納得を得つつリードするリーダーシップを生み出し続けられるかが焦点となります。国境を越えて市場の力が働くグローバルな経済環境の理解と、国際的協調を実現する能力も必須といえます。

世界的にも高く評価されてきた日本の官僚制ですが、ドグマと既得権益の呪縛の中で、縦割りの制度疲労が進行しつつあります。そのような環境の中で、再生のための政策立案能力を作り出すために何が出来るか自問していた時期に、伊藤隆敏教授から東大で公共政策大学院を立ち上げ、ゆくゆくは(ハーヴァード大学)ケネディスクールのようなものにしていきたいので、一緒にやらないかとの誘いがありました。30年前に米国に留学し、実務界と学界が交錯し一体となって合理的政策を追求するダイナミズムに刺激を受け、20年前には、公共政策に熱意を持つ各国の若い諸君をケネディスクールで教えた経験を持つ私にとっては格好のお誘いでした。

以来6年、昨年10月に国際プログラムもスタートし、よく来たものだという感慨と道半ばとの思いの交錯する中で、私自身一区切りを迎えました。幸いにも、引き続き産学官の連結点に身をおき、当大学院にも関わることになったので、その時に考えた理想の実現に少しでも貢献できればと思っています。

最後になりましたが、東北関東大震災で甚大な被害を受け、福島原子力発電所が深刻な状況になるなど、日本経済の復興の道筋は16年前の阪神大震災に比べてもはるかに厳しいものがあります。当大学院がその復興の基礎の一つになっていくことを祈念しています。

# 第3回海洋政策教育・研究ユニット公開セミナー

## 「アジアの海の国際秩序～持続可能な海上交通に向けて～」



特任准教授 長谷知治

アジアの海上交通は、荷動きの増加に伴う航路の過密化と地形的要因から航行安全・海洋環境に大きな問題があるほか、沿岸国の治安情勢等から海賊・武装強盗等の危険性など、極めて脆弱な海域を舞台に辛うじて維持されており、様々な課題が複雑に絡み合っています。第3回を迎える今回のセミナーは、日本財団のご支援の下、アジア地域の海上交通に関わる多様な問題についてアジアの主要ステークホルダーからその戦略についてお話を伺い、持続可能なアジアの海上交通のあり方を追究する場として、2010年3月3日に開催されました。



奥脇直也東京大学公共政策大学院客員教授による開会挨拶に始まり、シンガポールのMary Seet-Cheng大使より東アジアにおける海上交通における戦略的課題、世界最大級のコンテナ船会社マースクライン北アジア地区最高責任者のTim Smith氏からはマースクの東アジア戦略について特別講演を頂きました。釜山港湾公社副社長のSeong-Koo Hwang氏と福岡県商工部国際経済観光課課長の合野弘一氏から現状と戦略について講演を頂き、東京大学公共政策大学院の城山英明教授、東京大学大学院工学系研究科の加藤浩徳准教授からも最新の研究成果の披露がありました。講演の後は城山教授司会によるパネルディスカッションで、アジアの海上交通におけるリスク、課題とその対応についてアクター間の連携も含め興味深い議論が交わされました。今回は日本では滅多にお話を伺えない講演者ということもあり、大学、海事業界、行政機関など多様な方々と最新の知見を共有できた場となりました。

## 日蘭共催シンポジウム報告

特任講師 吉澤 剛



地震発生後、戸外に場所を移して講演を行ったFrans Brom氏

2011年3月11日(金)、「根拠に基づく科学技術イノベーション政策のための実践とコミュニティの発展に向けて」と題するシンポジウムが国際文化会館で開催されました。I2TAプロジェクトとオランダ・ラテナウ研究所との共催です。はじめに、同研究所のBarend van der Meulen氏とFrans Brom氏から科学システムアセスメント(SSA)とテクノロジーアセスメント(TA)について講演がありました。その後、社会技術研究開発センター長の有本建男氏より、日本においてはできることからTAを普及すべきであり、TA機関が設立されたとしても既存の政策評価に終始しないよう留意しなければならないとのコメントがありました。政策研究大学院大学准教授の角南篤氏は、社会科学者が政策を評価するときには、目標を明らかにし、定性的で幅広い根拠に基づく政策(EBP)が重要であると指摘しました。これに対し、Brom氏はTA機関の設置場所や運営の透明性の確保が大事であると語り、van der Meulen氏からは大学と比べたラテナウ研究所のあり方の違いについて意見を頂きました。I2TAプロジェクトリーダーの城山英明教授(東京大学)は、科学技術政策の多様性やTA機関におけるチェックアンドバランスの意義について触れ、結びの言葉としました。大地震の当日であったにもかかわらず、参加した方々の熱意に励まされ、無事にシンポジウムを終了することができました。非常事態の中、参加戴いた皆様に改めて御礼申し上げます。

# 学生

## インタビュー

### — 公共政策大学院 (GraSPP) を選んだ理由は？

**岩田さん** (以下 岩)：国際基督教大学の学部時代に交換留学で行ったカナダのトロント大学で国際関係について外からの視点を得ましたが、今度は日本からの視点をとりたいので GraSPP に入りました。

**飯村さん** (以下 飯)：早稲田大学の学部時代から経済専攻でしたが、大学院では政治についても学びたいと思っていて、大学院を修了したら社会に出るつもりもあったので、GraSPP を選びました。マクロ経済、ミクロ経済、費用便益分析に関しては、GraSPP のレベルは世界屈指だと思います。

### — 面白かった授業は何ですか？

**岩**：松浦正浩先生の「交渉と合意」では、実際に何回かシミュレーションで交渉をしたのが印象に残っています。相手を説得するのではなく、相手との共通利益を見出し、合意を結ぶための訓練を積みました。海洋プログラムの授業は、東北関東大震災を経た今になって振り返ってみると、津波や海の防災の話その道の専門家であるゲストスピーカーから伺えたのは貴重でした。

**飯**：昔から憧れていた伊藤隆敏先生には、留学も含めてお世話になりすぎてしまって(笑)。伊藤先生の英語の授業「Case Study (Japanese Macroeconomic Policy: Assessment of Monetary and Fiscal Policies)」では、タスク量も多く大変でしたが、日本人は10人中3人しかなくて、多様性のある環境でとても刺激的でした。テーマがコーポレート・ガバナンスという旬な内容の「資本市場と公共政策」は、石田晋也先生の人脈のおかげで、金融監督部門のトップや企業側の責任者など、各分野の最前線で指揮を執るゲストスピーカーのお話が伺えました。毎回が大型公開セミナーのようで、異なる視点からコーポレート・ガバナンスの在り方を学ぶことができ、金融業界に進む私にとっては大変意味のある授業でした。



学位授与式後の謝恩会にて (左：飯村さん、右：岩田さん)



SIPA にて (左端が岩田さん)

### — 企業の御寄附による奨学金で、二人ともコロンビア大学国際公共政策大学院 (SIPA) に留学したそうですね。

**岩**：奨学金がなければ留学は難しかったのでありがたかったです。平和・紛争学、国際関係、国連活動に興味があったので、SIPA が第一希望でした。SIPA は6割以上が外国人学生なので、彼らとのグループワークはずいぶん勉強になりました。重点的に取った人権問題関係の授業に出席している学生の大半は欧米系で、アジア系はあまりいませんでした。社会人を経て入学している人が多かったという意味でも SIPA は多様性に富んでいました。

**飯**：コロンビア大学が金融・経済方面に強いという点と、学部生時代に読んでいた本の著者ジョゼフ・スティーン教授やジャグディッシュ・バグワティ教授など著名な学者が多くいる点が決め手でした。生徒の国籍は多岐にわたっていました。アメリカ人、ブラジル人とグループワークで組んだことがありましたが、それぞれの個性のなせるわざか、はたまたお国柄のせいかわかりませんが、レポートを提出するまで大変でした(笑)。

MPP/IP が始まったこともあり、GraSPP にも外国人学生の比率が高い授業はあります。でも日本人学生と外国人学生との交流があまり活発ではありません。彼らは日本人のもの見方が知りたいはずですよ。

**岩**：GraSPP も交流イベントが増えて、外国人学生がもっと多くの日本人学生と話ができるようになればいいと思います。また、増えてきたとはいえ、英語の授業はまだ少ないのではないのでしょうか。

### — 就職は決まりましたか？

**岩**：国際的な仕事、途上国を支援する仕事をしたいとずっと思っていたので、途上国支援団体等も考えたのですが、総合会社に決めました。

**飯**：証券会社に決まりました。学部のときからその会社の方に会う機会が多かったのと、2ヶ月半ほどその会社のコンプライアンス部門でインターンとして働いたときの相性がよかったので。ご縁があったのだと思います。

(インタビュー・文責 編集担当)

岩田千鶴さん 二〇二〇年度国際公共政策コース修了  
飯村美佳さん 二〇二〇年度国際公共政策コース修了

# GraSPP Day

国際公共政策コース 2年 福島有香

2月21日と3月14日、公共政策大学院(GraSPP)とシンガポール国立大学リークアンユー公共政策大学院(LKY)及びコロンビア大学公共政策大学院(SIPA)との交流イベント「GraSPP Day」が開催されました。SIPAの学生との交流は毎年恒例となっていますが、LKYとの交流は今年から始まりました。

2月21日のLKY-GraSPP Dayでは、田中均教授の東アジアの地域主義についての基調講演、LKYの学生によるプレゼンテーション、交流レセプションが、3月14日のSIPA-GraSPP Dayでは、田中均教授の政府の災害対策についての基調講演、GraSPPの学生による津波・原子力の説明、交流レセプションが行われました。

田中均教授の東アジアの地域主義と政府の災害対策についての講演では、それぞれの多様なバックグラウンドを背景とした問題意識に基づく質問が学生から提起され、講演の内容が深まりました。また、LKYの学生のプレゼンテーションは、それぞれ官僚としての職務経験に基づいており、日本の政策課題や政官関係にたいする多くの示唆を含むものでした。

交流レセプションでは多様なバックグラウンドをもったLKYおよびSIPAの学生との活発な意見の交換が行われ、参加したGraSPPの学生からは普段とは違う角度から多様な問題に触れることができたとの声が多く聞かれました。



LKYの学生とともに



SIPA-GraSPP Dayで講演する田中均教授



## 大学教育の国際化を支える企業

渉外担当職員 殿木久美子

「学生インタビュー」及び「GraSPP Day」にありますとおり、これらのイベント・奨学金は、平成20年度から3年間にわたる法人様からの国際化推進事業(第1期)への寄付金で賄われております。お陰様で、本大学院のプログラム、学生構成等は、目覚ましい国際化を遂げました。厚く御礼申し上げます。引き続き、第2期(平成23年～平成26年度)も、**アフラック**、**(株)東芝**、**トヨタ自動車(株)**他2社よりご支援いただけることとなりました。

本大学院の国際化への取り組みにより、我が国と海外の知識層や将来の政府要人とのネットワークが広がることは、海外展開を進める企業への理解はもとより、我が国の経済活動への理解の増進にもつながると考えております。

ご関心のある皆様は、以下のホームページをご覧ください。

<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/contribution/index.htm>

### NEWSLETTER

第24号

[編集・発行] …… 東京大学公共政策大学院  
GRADUATE SCHOOL OF PUBLIC POLICY  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

[発行日] …… 2011年4月28日

[デザイン] …… 安孫子正浩(水蒸気図案室)

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 tel 03-5841-1710 fax 03-5841-7877

E-mail [grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp](mailto:grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp) <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp>

編集  
後記

今回の学生インタビューには、「男性に伍す」という陳腐な表現を軽やかに飛び越えていった女性二人に登場願いました。「今の学生は内向きとは思わない」をはじめとする彼女たちの数々の名言に、まだまだ日本も捨てたもんじゃない、と思った次第です。(編集担当)